

第二回埼玉スタジアム2002公園管理運営指針策定委員会
委員会における主な意見

- ・ 具体的な事項について多くのアイデアを今後実施できるような表現・内容とするのであれば、理念となる将来像は、この指針の中で創り込み示すことが必要である。
- ・ 一般の人や、イベント関係者等が、今後埼玉スタジアムがどのように変わっていくのか分かるようなビジョンをつくるべきである。
- ・ 民間事業者が施設整備を含めて主体的に事業を行うことができること、民間の強みを活かした提案を推奨し行政は支援する意思があること、地域連携に資する独自性ある提案を求めること等、指定管理者にどのような運営を期待しているのかを示すべきである。
- ・ 埼玉スタジアム2002公園が日常利用する広場として大切な場所であると認識してもらうことが重要である。
- ・ サッカー選手のみならず、地域の人にも誇っていただけるサッカースタジアムに、これからなっていく、という姿勢を示すことが重要である。
- ・ サッカー以外の利用を含めた公園全体の新しいコンセプトが必要である。
- ・ サッカーの重要性を踏まえつつ、サッカー以外の利用を受け入れ、地域の誇りや地域との共生を盛り込んだコンセプトが必要である。
- ・ サッカーに縛られる管理運営だと捉えられることは避けるべきである。スポーツが日常にある喜び、思いが次世代につながっていくイメージを伝えたい。
- ・ 実際の活動が見えるメッセージが重要である。新しい、多様なサッカーの楽しみ方を展開し、地域の中でスポーツを楽しむ「文化」が創造されていくことを謳う必要がある。
- ・ 芝生利用のフレキシビリティが下がるような芝生管理の方針にするべきではない。
- ・ 利用促進と芝生管理の両立、ユーザーや専門家の意見を伺いながら管理を行うことが指針に書かれるべきである。
- ・ 芝回復の期間確保について指針に定めるのではなく、次の利用者が求める芝の質を確保することが重要であり、指針に書かれるべきである。
- ・ 定めたスケジュールの中で芝生管理を行うことが基本である。芝回復期間を確保することを前提に置くと試合数は増えないと思う。
- ・ コンサートを1回でも開催することが、埼玉スタジアムの宣伝効果を生む。コンサートを開催する意思があるのであれば、開催のための期間を確保する、という姿勢が指針に示されていることが重要である。
- ・ 県と市の連携の仕方、連携して実現していく内容についても記載が必要である。
- ・ 交通等、周辺エリアを含めたビジョンを描くのであれば、みその都市デザイン協議会についての記載、さいたま市の計画との整合についての記載が必要である。

- ・ 駅からスタジアムの動線で、地域の情報を発信することもまちづくりにつながると思う。
- ・ 類似施設調査結果については、優良事例が実現に至った創意工夫、実施体制についても指針にできるだけ反映することが望ましい。